

1 なぜこの講座が必要か 四つの理由

経済学を知らなくともなれる公民教員 経済を学んだ教員の絶対数の少なさ
教員養成系大学の貧困 教育系の学生の経済ざらい

2 教科書での経済と学説史

指導要領の確認 経済の出発点がない 経済学者の登場の少なさ

3 経済学の定義と領域

ロビンスの定義 希少性原理 現代新古典派の源流 対抗するもの

4 経済学説史の概観

二つの源流 アリストテレスの経済学

重商主義の経済学 重農主義の経済学

スミスの経済学とそのエッセンス 倫理学者か経済学者か

分業、労働価値説、見えざる手、自由放任

古典派経済学

リカードとミル、マルサス

マルクス経済学

『資本論』の世界 労働価値説 労働力の商品化 搾取説

マルクス以降 日本のマルクス経済学（正統派、宇野派、構造改革派、その他）

限界革命の経済学者たち

三つの流れ ジュボンズ、メンガー、ワルラス

新古典派の形成 マーシャル ピグー

5 現代経済学の動向

新古典派 サムエルソンの新古典派総合

ケインズとその批判者たち

ネオケインジアン マネタリスト サプライサイダー オーストリアン

第三の流れ

マルクス残党 制度派経済学 進化経済学 行動経済学など

四つの特徴

制度化されている 数理的処理された論文 ノーベル経済学賞 新しい分野が登場

四つの批判と反批判

人間像が一面的 拝金主義 品格がない 格差社会を生み出す

*検討事項

公民教員の経済学の貧困の克服法…役立つ経済学の知識は何か

経済学への批判と反批判の吟味…経済を学ぶことで何が得られるか（教員も生徒も）

経済学寺子屋 第1回 総括メモ

実施日：2016年3月5日（土）14：00～16：30

場所：ネットワーク東京事務局

参加者：新井、吉田、高橋、杉田 4名

主な内容：（メモより）

さて、昨日の寺子屋、お疲れ様でした。

予想通り（いつものことですが）、予定通りには進行しませんでした。充実した時を過ごすことができ、感謝しています。

杉田、吉田、高橋、新井の4名が参加しました。

ドラフトでいうと、p9のスミスの前まで一応終了しました。

以下のような話題が登場しています。

経済学と教師として知っておきたい知見、市民として知っておきたい経済知識の関係がまず話題になりました。

エコノミスト、教師、生徒の経済や経済学に対する知見がどこまで必要なのかという課題になります。

また、テーマ型学習と時系列型の学習のトレードオフも経済学説史をどう扱うかで話題になりました。

このことは、テーマ学習（体験型学習）と体系型学習の相克とも関連して、ある意味永遠のテーマかと思います。

内容的には、経済学の定義、主流派経済学（新古典派）に対抗する学派の概観を押さえました。

そのうえで、各論に入り、スミス以前のアリストテレス、トマス、重商主義と解説したところで時間切れとなっています。

吉田先生からは、進路指導の体験から、雇用の問題など経済情勢に対応した経済知識の伝達（教育）の必要性が提起されました。

また、『学力の経済学』を読んで納得するところと「いらっとくるところ」という話題がだされ、経済学のもつ合理性とそれが落としてしまっている心情（warm heart）の問題が提起されました。

吉田先生の提起に加えて、杉田先生からも、部活の機会費用など学校をベースとする経済学が欲しいという話も出てきています。

この寺子屋の内容は、経済学教育の要素が強いものですが、経済教育としての経済学のあり方（特に日本の学校を踏まえたもの）を再検討してみることがさらに必要と新井は捉えました。